

岡山県新型コロナウイルス感染症対策本部会議（第76回）
〈書面開催〉

日時：令和4（2022）年11月30日（水）

議事次第

1 開会

2 議題

新型コロナウイルス感染症対策について

3 閉会

資料

新型コロナウイルス感染症対策について

○ 保健福祉部関係

- ・ 県内の感染状況
- ・ オミクロン株対応の新レベル分類
- ・ (参考) 新レベル分類における協力要請・呼びかけ
- ・ 新レベル分類によるレベル判断
- ・ 外来医療体制整備計画
- ・ コロナ受入確保病床等について

直近1週間の岡山県の状況(11/23~11/29)及びレベル判断

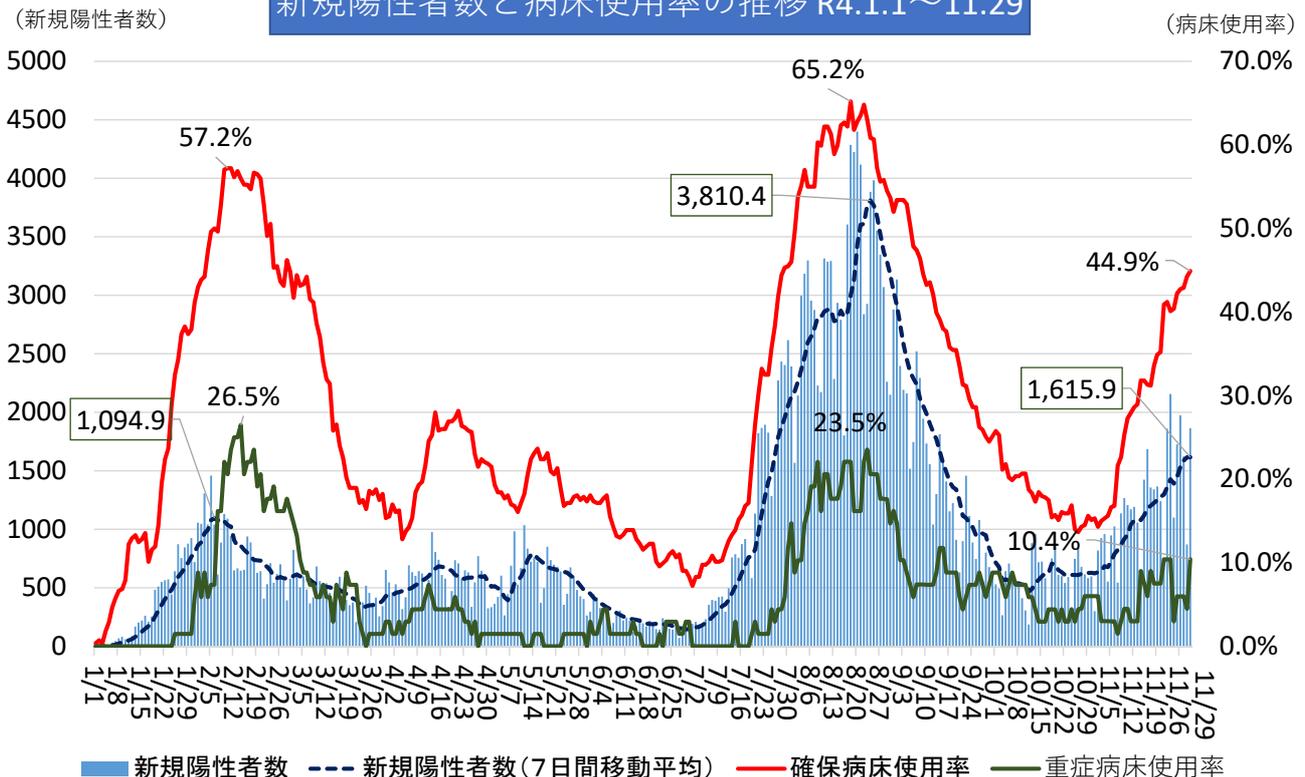
※速報値

総合的判断 レベル2

区分	確保病床使用率		新規陽性者数		PCR等陽性率	10万人あたり療養者数	入院率	重症者数	人口10万人あたり自宅療養者数及び療養等調整中の数の合計値
	重症者用	10万人あたり	10万人あたり	今週先週比					
レベル2の目安	15%	参考	15人	参考					
さらなる警戒強化	30%	参考	30人						
レベル3の目安	50%	参考	参考						
今週	44.9% 269床/599床	10.4% 7床/67床	599.10人 11,311人	1.13 11,311人/9,990人	73.7% 11,306件/15,331件(※)	599.1人 11,311人	3.1% 348人/11,311人	7人	575.3人 10,862人
先週比較	↑	→	↑	↓	↓	↑	↑	→	↑
時点	11/29		11/23~11/29			11/29			
11/17~11/23	41.2% 247床/599床	10.4% 7床/67床	529.13人 9,990人	1.21 9,990人/8,256人	74.7% 9,990件/13,370件	529.1人 9,990人	2.7% 272人/9,990人	7人	508.4人 9,599人

※ PCR等陽性率は、11/22~28の期間における(新規陽性者数)を(11月29日までに医療機関等から報告があった検査数)で除した割合。
なお、濃厚接触者を医師の臨床診断により、検査を行わず陽性者と判断(みなし陽性)する場合がある。

新規陽性者数と病床使用率の推移 R4.1.1~11.29



オミクロン株対応の新レベル分類

	レベル1 感染小前期	レベル2 感染拡大初期	レベル3 医療負担増大期	レベル4 医療機能不全期
●事象				
保健医療の負荷の状況	・外来医療・入院医療ともに負荷は小さい	・診療・検査医療機関（発熱外来）の患者数が急増し負荷が高まり始める ・救急外来の受診者数が増加する ・病床利用率、医療従事者の欠勤者数が上昇傾向となる	・発熱外来・救急外来に多くの患者が殺到する、重症化リスクの高い者がすぐに受診できない状況が発生 ・救急搬送困難事案が急増する ・入院患者が増加し、また医療従事者にも欠勤者が多数発生し、入院医療の負荷が高まる	・膨大な数の感染者に発熱外来や救急外来で対応しきれなくなり、一般外来にも患者が殺到する ・救急車を要請されても対応できない状況が発生する。通常医療も含めた外来医療全体がひっ迫し、機能不全の状態 ・膨大な数の感染者により入院が必要な中等症・重症の患者数の絶対数が著しく増加する ・多数の医療従事者の欠勤者発生と相まって、入院医療がひっ迫する ・入院できずに自宅療養中・施設内療養中に死亡する者が多数発生する ・通常診療を大きく制限せざるを得ない状態
社会経済活動の状況	—	・職場の欠勤者が増加し、業務継続に支障を生じる事業者が出始める	・職場で欠勤者が多数発生し、業務継続が困難になる事業者が多数発生する	・職場の欠勤者数が膨大になり社会インフラの維持に支障が生じる
感染状況	・感染者数は低位で推移しているか、徐々に増加している状態	・感染者数が急速に増え始める	・医療の負担を増大させるような数の感染者が発生する	・今冬の新型コロナウイルス感染者の想定を超える膨大な数の感染者が発生する
●指標				
病床利用率	概ね0～30%	概ね30～50%	概ね50%超	概ね80%超
重症病床利用率	—	—	概ね50%超	概ね80%超

レベルの移行にあたっては上記の事象と指標を踏まえ、総合的に判断

(参考) 新レベル分類における協力要請・呼びかけ

2022年11月25日国の新型コロナウイルス感染症対策本部決定
「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」

●「医療ひっ迫防止対策強化宣言」に基づく対策

新レベル分類の「レベル3 医療負担増大期」においては、地域の実情に応じて、都道府県が「医療ひっ迫防止対策強化宣言」を行い、住民に対して、感染拡大の状況や、医療の負荷の状況に関する情報発信を強化するとともに、より慎重な行動の協力要請・呼びかけを実施すること、事業者に対して、多数の欠勤者を前提とした業務継続体制の確保に関する協力要請・呼びかけを実施すること等を選択肢とした取組を行う。国は、当該都道府県を「医療ひっ迫防止対策強化地域」と位置付け、既存の支援に加え、必要に応じて支援を行う。

●「医療非常事態宣言」に基づく対策

新レベル分類の「レベル3 医療負担増大期」において、急速な感染拡大が生じている場合や、上記の「医療ひっ迫防止対策強化宣言」に基づく対策を講じても感染拡大が続き、医療が機能不全の状態になり、社会インフラの維持にも支障が生じる段階（新レベル分類の「レベル4 医療機能不全期」）になることを回避するために、地域の実情に応じて、都道府県が「医療非常事態宣言」を行い、国は、当該都道府県を「医療非常事態地域」として位置付ける。当該都道府県は、住民及び事業者に対して、人との接触機会の低減について、より強力な要請・呼びかけを行う。

新レベル分類によるレベル判断

令和4(2022)年11月29日

総合的判断

レベル2

●事象

○保健医療への負荷の状況	
発熱外来等の負荷	上昇傾向
入院医療の負荷	上昇傾向
医療従事者の欠勤増加等による医療の制限	上昇傾向
○社会経済活動の状況	
その他の欠勤増加等による業務の制限	公共交通機関等で制限は見られていない
○感染状況	
感染者数	増加傾向

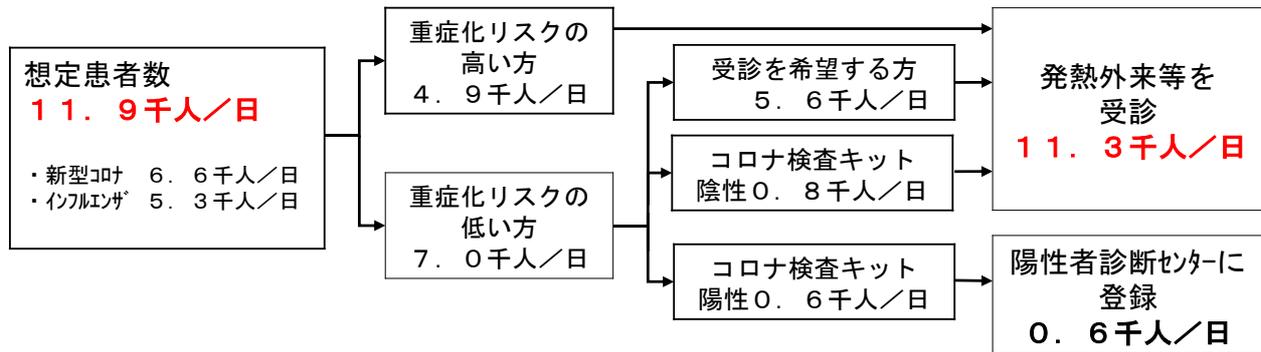
●指標

病床使用率			重症病床使用率		
確保病床の入院者数	確保病床数	使用率	確保病床の重症者数	確保病床数	使用率
269	599	44.9%	7	67	10.4%

外来医療体制整備計画

新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザのピークが同時に重なった場合、1日あたり11.9千人の発熱患者等を想定

※重症化リスクの高い方：小学生以下、高齢者、13～64歳で基礎疾患等のある方
重症化リスクの低い方：13～64歳で基礎疾患等のない方



発熱外来等のひっ迫が予想されるため、県民に対して抗原定性検査キットや自宅療養に必要な解熱鎮痛薬等を、あらかじめ購入し、体調不良時に備えるよう、呼びかけを継続する

	平日	土曜日	日曜日・祝日
発熱外来等の診療可能人数	13.4千人	8.3千人 →9.6千人	1.2千人 →3.6千人

土曜日は診療時間の延長を依頼、日曜日・祝日は休日診療を行う医療機関を支援することにより診療能力を拡充

コロナ受入確保病床等について

次の感染拡大に備え、次のとおり変更する。

	11/29まで	11/30から	増減数
医療機関数	68 機関	69 機関	+ 1 機関
うち重症者用病床	11 機関	11 機関	± 0 機関
うち重点医療機関	15 機関	15 機関	± 0 機関
うち協力医療機関	28 機関	28 機関	± 0 機関
確保病床数	599 床	600 床	+ 1 床
うち重症者用病床	67 床	67 床	± 0 床